



# 八王子盲学校だより



令和5年12月発行 第8号  
東京都立八王子盲学校長 安田 咲登子

## 『不易流行、その本は一つなり』

副校長 能瀬 圭介

教職員が毎週提出するものに「週ごとの指導計画」というものがあります。先週、本校に長年勤める時間講師の先生から、こんなことが備考欄に書かれていました。

「週一度の勤務だが、校庭の仮校舎の工事がどんどん進んでいる。引っ越しは来夏と聞いている。この校舎での学習も残り少なくなってきた。自分の八王子盲学校勤務時代を回想すると一抹の寂しさを感じないでもないが、新校舎への期待は大きい。八盲の歴史の中で校舎建築は大きな転換期となるに違いない。盲教育の『不易と流行』とは何か。今後の盲教育の在り方、進むべき道を見通して次の世代に引き継いでほしいと願う。自分も一時間講師としてしっかり努めたい。」

本校の「不易」とは「幼児・児童・生徒の自立と社会参加を支援する」という創立の精神です。それを実現するために「流行」である学校改革を進めていくことが必要と私は捉えています。これは学校経営計画の中にも『視覚障害教育の専門性を発揮した学習指導「攻め(挑戦)と守り(継承)の二刀流』と掲げられています。コロナ禍において急速に進んだデジタル教材ありきの授業実践のみに陥ることなく、五感を駆使した盲教育の基礎・基本を大切にされた授業との併用に努めてきました。5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行されてからも、コロナ禍前の教育活動に戻すのではなく、より良い教育活動を第一に考えて改善を重ねています。時代背景と世の中が移り変わる中で、原点に立ち返ることと、さらに豊かに膨らませることを忘れてはいけないと思います。「その本は一つなり」即ち「両者の根本は一つ」です。「不易」があつての「流行」であり、「流行」があつての「不易」です。本年を振り返り実感しています。

## ＜校舎改築に関する工事等の予定＞

校舎棟2階の職員室では、窓を開けると、地面が同じ高さ…という、不思議な光景を目にすることができます。基礎工事で掘った土が積みあがっているためです。

12月は、基礎工事とこの土の埋め戻し作業が行われる予定です。騒音や振動は「小」レベルと予想されています。

仮囲いと校舎の間の狭いスペースには、畑がかるうじて残っており、各学部とも栽培を続けています。

12月28日(木)から1月8日(月)まで、工事は休みとなります。



## 幼小小学部の振り返り

主幹教諭 深澤 陽子

2学期は行事で始まり行事で終わるといっても過言ではないようです。秋の遠足や都内盲学校交流会、移動教室、幼稚部のロング散歩、修学旅行と校外に出て学習する機会も多く、子供たちはとてもアクティブに過ごしました。10月の全校学習発表会は幼小合同での発表となり、コロナ禍前以来、久しぶりに保護者の方に制限なく参観していただきました。練習も頑張っていました、本番では子供たちに多くの応援パワーが届き、一番素晴らしい演技を発表することができました。

12月はお楽しみ会や餅つき会 & 年忘れ落語会と年末らしい締め行事が待っています。生活を楽しみながら、日々の学習を積み重ね、行事を通じて、今年も大きく成長しています。

## 中学部の振り返り

主幹教諭 大越 恵仁

2学期の中学部は各月に行事があり、生徒は行事を通じて心身共に大きく成長していきました。

9月には宿泊防災訓練がありました。1年生は災害時の避難所での過ごし方を考え発表することで、災害時の行動について学びました。10月末の学習発表会の舞台発表では生徒8人が協力して日頃の練習の成果を生かし、素晴らしい発表ができました。11月は職場体験を経験しました。訪問する施設先調べの事前学習やお礼状作成の事後学習を含めて、「働く」ことや「人の役に立つ」ことの大切さについて有意義な学習をすることができました。

生徒はそれぞれの行事を経験したことで、その後の様々な学習に自信をもって臨めているように感じられます。広い視野と積極的な意欲をもって日々の学習に取り組むことを期待しています。

## 高等部普通科の振り返り

主任教諭 山田 智生

2学期は各学年進路に向けて、重点的に取り組みました。1年生は、各自の興味のある分野での職業体験をするため、初めてのインターンシップ(1日)に取り組みました。2年生は各自の進路選択をより現実的なものにするため、3日間のインターンシップに取り組みました。3年生は、卒後の進路実現に向けて、大学受験や現場実習に取り組みました。1・2年生1組は進路先見学にも出かけました。一人一人が学校を離れて別々の様々な経験を積み、将来の生活について考えを深める機会となりました。

10月末には学習発表会が行われ、普通科では、全員が共通で学習する「体育」の授業を中心に、学習発表を行いました。ポディーパーカッションやストンプのリズムを皆で息を合わせて刻むことで、全員の心が一つになり、素敵な発表を披露することができました。

## 高等部理療科の振り返り

主幹教諭 伊藤 光泰

理療科では、2学期に多くの行事が行われました。

校外の見学では卒業生が活躍する施術所や企業内ヘルスキーパールーム、校内では卒業生をお招きしての進路講座、理療科特別講座などです。これらの行事を通して、あん摩・鍼・灸施術に関する意識を高め、免許取得後の希望進路の実現に向けて大いに参考になったのではないかと思います。

また、3年生は、12月に国家試験願書を提出します。いよいよ試験モードに入ってきました。

年明け早々には最後の模擬試験が予定されています。お正月の楽しい誘惑に負けずに受験勉強を頑張ってください。